

アメリカの残虐史(その②)



精神科医

瀬戸 睿

心の悩みエトセトラ

第 35 話

アメリカは前回書いたように欧州からの移民で、先住民のインディアンを滅し1789年ジョージ・ワシントンを初代大統領として成立した。

1900年代、ミシシッピ川以西のルイジアナの農作物を巡ってイギリスとフランスは戦争をしていた。イギリスが勝利したが、今度はアメリカとけんかをし1812年米英戦争が始まった。1815年に停戦となるが、アメリカは欧州との関係をきる方向に舵を切り「モンロー主義」

を唱え、フロリダ・ルイジアナ・メキシコ・カリフォルニアを獲得した。この時、インディアンを虐殺しながら西部に行こうという移住者たちのフロンティア・スピリットが生まれ、それが今の「アメリカン・ドリーム」の原点であった。

アメリカは西部へ領土を拡大し、南部は奴隷制度を基盤とした農業を行い、北部は重工業の労働者不足で黒人の労働力が必要となり、その利害の対立で南北戦争を生んだ。1860年にエイブラハム・リンカーンが大統領に就任し、南北戦争となった。リンカーンは1863年に北部の資本家から喜ばれる「奴隷解放宣言」を発表、1865年北軍勝利となり、アメリカは再統一となる。

リンカーンは、西部との流れを強めるため南北戦争中から大陸横断鉄道を作ろうとしたが、インディアン、食い詰め者の白人労働者、ギャングなどの抵抗で西部劇のような争いになった。パツァローはインディアンの生活の糧であったが、鉄道建設の邪魔になり殺され4000万頭から1000万頭まで減らした。インディアンは生活の場がなくなってしまうが、あきらめず米軍と20年間闘い続けたが、最後はアパッチ族のジェロニモの投降とウインデッド・ニーの虐殺を機に敗北した。

数年後の1869年大陸横断鉄道が完成し、それを機にアメリカは実質1つの国土となり、インディアンを滅ぼし、黒人を差別する白人社会の統一であった。

次回は、帝国主義時代のアメリカを書きたいと思えます。



医療法人社団 俊睿会

南埼玉病院

精神科・神経科・心療内科・デイケア

越谷市増森 252 URL <http://www.minamisaitama.com>

☎ 048-965-1151